
職業：魔王！？

黒天

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

職業：魔王！？

【Nコード】

N0957Z

【作者名】

黒天

【あらすじ】

日本のどこかにある森間学園にかよう主人しろがね公白銀 紅くれないはランク1の劣等生。けど、召喚霊と契約を行う儀式でとんでもないもの召喚した挙句、「予言の洞窟」でとんでもないことを予言される……

第1話 日常

ここは日本のどこかにあるにある森間学園。至って普通の学校であるが、「魔術」を教える学校でもある。

この学園には珍しい行事があり、学園にある「予言の洞窟」に行くというものだ。そこでは行った生徒の将来、未来、が予言される。

「魔術は「火」、「水」、「土」、「光」、「風」の5種類の属性がある。属性の中にも色々系統が分かれ、魔術を行使する時一人一人守護霊との契約を行う。人は生まれながら魔術の才能はあり、それを可能にするために契約をします。~~~~~」

担任の倉田が魔術の属性などの基礎を説明しているのを聞きながら、白銀 紅は居眠りをしかけていた。

(いつもランク1の俺が聞いていても意味ねえよな)などと考えて机に伏せようとしていたら、

「紅、おれの授業で寝るとはいい度胸だな」

「いや、寝てないですよ。ほんとですって」

「分かった。なら、「闇」について説明してみろ」

「わかりました」せき込んで立って

「「闇」は今までであったとされる属性ですが、250年前に世界を恐怖に陥れた魔王 が使っていたという記録が最後で、今は滅んだ属性とされています」その説明を聞き

「良かるう」腕組みをして聞いていた倉田に評価をもらい、着席すると

「今白銀が説明したとおり「闇」はほろんだとされている。~~~~~」と倉田が説明しているときにベルが鳴った。

「今日はここまで。明日は守護霊と契約を結んでもらう。自分の属性を再確認するように」最後に倉田がそう言い、教室から出ていくとすぐ終礼が始まった。

次の日「よし。今日はがんばるか」などと紅が意気込んでいると後ろから

「朝っぱらから元気やなあ。白やんは」

とクラスメートの国田 ハルトがだるそうにやってきた。

「当たり前だろ？ 今日はどうとう守護霊と契約出来るんだぞ？ わくわくしないわけないだろ」

「いいなあ。俺失敗しそうで怖いなあー」

「大丈夫。お前なら出来るさ」そう言って国田を励ましながら教室にはいると

「……おはよう」「……」と朝っぱらからうるさい挨拶がきた。いつものことなので適当にかえしていると

「し〜ろ〜君。お〜は〜よう〜」なんかすぐく間延びした挨拶が聞こえた。紅が冷や汗をかきながらふりむいてみるとそこにはなぜか知らないが朝から「光」の電撃系の魔術を行使しようとしていた幼馴染 音原 アリサがいた。

「あの〜なんで朝から怒っているのですか？ すぐくこわいのですけど……」

「う・る・さ・い」と黒い笑顔をみせ、紅に電撃を放った。

「あぶねえな、おい。」あわてて自分の属性である「火」の魔術でガードした。一連の動作を見ていたクラスメートたちは

(朝から痴話喧嘩してえんじゃねえ)と殺気だっていたという。

第1話 日常（後書き）

初めて書きました。アドバイス、駄目だし、などありましたら
いい言葉でもいいのでお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0957z/>

職業：魔王！？

2011年12月3日17時58分発行